

群 教 セ	G05 - 03
	平19.239集

曲の聴き方が深まり、 表現の工夫ができる児童の育成

- 「曲の宝さがし」の活動を通して -

長期研修 研修員 富岡 千春

(研究の概要)

本研究は、<曲の印象><旋律を中心とした音楽の諸要素><曲のよさや美しさ>などを「曲の宝」とし、それらを探して鑑賞したり表現したりする「曲の宝さがし」の活動を通して、曲の聴き方を深め、表現の工夫ができる児童を育てることを目指したものである。

具体的には、音楽の聴き方を学ぶ、学んだ聴き方を生かして曲を聴く、学んだ聴き方を生かして表現の工夫をする、三段階の「曲の宝さがし」の活動を設定した。

キーワード 【音楽 - 小 感受 鑑賞 音楽のよさや美しさ 音楽の諸要素】

主題設定の理由

音楽科では、表現と鑑賞の相互の関連を図った指導を通して、「音楽を愛好する心情」「音楽に対する感性」を育て、「基礎的な能力」を培い、「豊かな情操」を養うことを目標としている。しかし、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 芸術専門部会の議事(2006.7)の中では、「歌唱の活動に偏る傾向があり、表現の他の分野と鑑賞の学習が十分でない状況が見受けられる。特に、創作と鑑賞の充実が求められている。」と指導の偏りを指摘している。

協力校児童(小学校2年生～6年生合計86名)に対して行った、「音楽の授業で好きな活動」の調査結果(図1)からは、「歌唱・器楽」と「鑑賞・創作」の間に、偏りがあることがうかがえる。

図2は、県内の教職員(総合教育センター音楽研修講座参加者・長期研修員・協力校職員)53名に、「授業で力を入れて指導している内容と音楽の指導での課題」につ

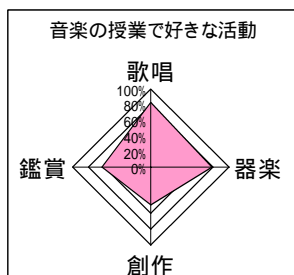


図1 協力校児童実態調査
注: 全児童数を100%とした割合

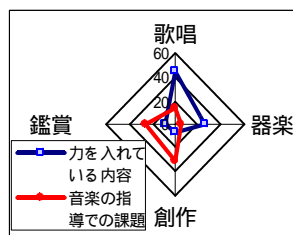


図2 県内教職員調査
注: 値は人数

いて行ったアンケート調査(2007.6)の結果である。多くの指導者が、歌唱や器楽の指導に力を入れており、鑑賞や創作に課題を感じていることが明らかになった。

学習指導要領解説には、「身に付けた鑑賞の能力は、すべての音楽活動の基盤になる。」「音楽の聴き方や感じ方を深めていくような学習指導を工夫して進める必要がある。」と記述され、生涯にわたって音楽を愛好するための基盤としての鑑賞指導の重要性を挙げている。「曲の聴き方を深める」学習指導については、中教審の同議事の中に、「音楽のよさを生み出しているさまざまな要素の働きなどを聴き取ったり、音楽に対して、根拠をもって自分なりに批評したりすることのできる力を育成する指導を一層充実してはどうか。」といった提言がなされている。

また、群馬県学校教育の指針では、「音楽の諸要素の働きから生まれる曲想や美しさを感じ取ったり、それらを表現や鑑賞の活動で生かしたりできるような学習を構想する。」と音楽的な感受にかかわる指導を鑑賞・表現の活動で充実させることを示している。

そこで、協力校児童に対して、音楽的な感受に関する調査を行ったところ、次のような結果が得られた。図3の3年生を例に取ると、リズム

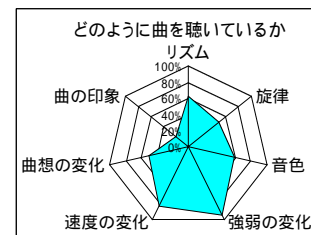


図3 3年生児童実態調査
注: 3年生児童数を100%とした割合

ム・音色・強弱・速度の変化においては半数以上の児童が感じ取ることができているが、曲の印象や旋律の変化を感じ取ったり、曲想の変化に気付いて曲のよさや美しさを味わったりして聴く能力に課題があることが分かった。

こうした実態を踏まえ、児童が主体的に音楽を聴くことができるように「曲の印象」「旋律を中心とした音楽の諸要素」「曲のよさや美しさ」などを「曲の宝」と位置付け、それらを探したり表現の中で生かしたりする活動を「曲の宝さがし」とした。この活動を通して、鑑賞と表現の関連を図った指導の工夫を行いたいと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

音楽の指導において、「曲の印象」「旋律を中心とした音楽の諸要素」「曲のよさや美しさ」などを探して聴いたり、表現の中で生かしたりする「曲の宝さがし」の活動を行えば、曲の聴き方が深まり、表現の工夫ができる児童が育つことを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 音楽の聴き方を学ぶために、曲の感じ方やイメージを引き出す活動「宝さがし1」を取り入れれば、曲想や音楽の諸要素に気付くことができるようになるであろう。
- 2 学んだ聴き方を生かして曲を聴くために、曲を特徴付ける諸要素を探し、曲想と関連付けて聴く活動「宝さがし2」を取り入れれば、曲の聴き方が深まり、よさや美しさを伝えることができるようになるであろう。
- 3 学んだ聴き方を表現に生かすために、曲を特徴付ける諸要素を探し、曲想と関連付けて歌唱・器楽・創作を行う活動「宝さがし3」を取り入れれば、曲のよさや美しさを生かした表現の工夫ができるようになるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 「曲の聴き方が深まり、表現の工夫ができる」とは
本研究は、鑑賞の指導の充実を通して聴く力を表現に生かす指導を行う。学習指導要領では鑑賞の能力の育成について「音楽を聴いてよさや美しさを感じ取るようにする。」と示されている。この「よさや美しさ」を感じ取っていく過程を「曲の聴き方を深める」ととらえた。しかし音楽のよさや美しさを感じることは、個人により差がある。

そこで、本研究では、児童が自然に「曲の聴き方を深める」ことができるように、「音楽の諸要素」*1に視点を当て、図4のような過程で指導を行うことにした。初めに、聴いた曲の印象を基に、なぜそう感じたかをリズム・旋律・音色...などの諸要素と関連付けて知覚する。そして、身体や言葉で伝え合う活動から、友達のかえに触れ、曲全体のよさや美しさを自分なりに解釈して感受する。こうした過程の中で、曲の聴き方が深まり、曲のよさや美しさを諸要素と関連付けて言葉で伝えることができるようになると思った。このようにして曲の聴き方が深まった児童は、表現の活動においても、曲想をとらえたり曲を特徴付けている諸要素に気付いたりして、曲のよさや美しさを感じ取り、それらが生きる表現の工夫ができるようになると思った。

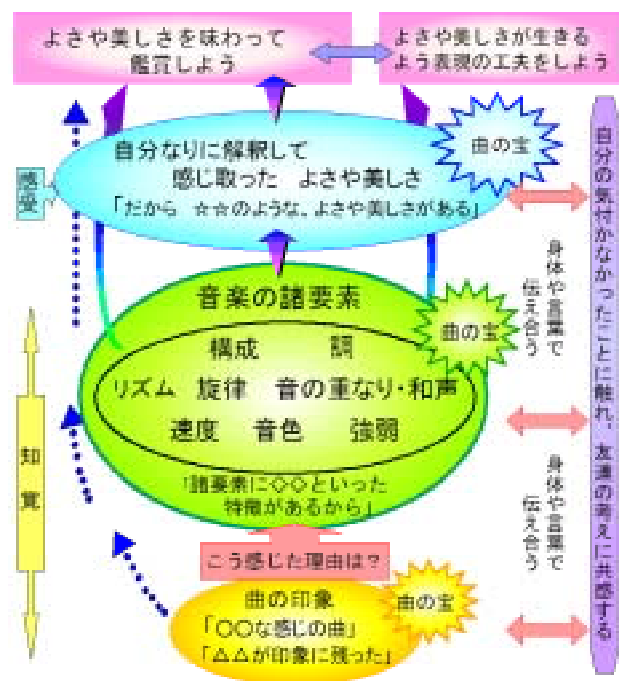


図4 曲の聴き方を深める過程

*1 リズム・旋律・音の重なり・和声・速度・音色・強弱・曲の構成・調など、曲を構成している要素

(2) 「曲の宝さがし」とは

目的をもって主体的に音楽を聴き、よさや美しさを伝えたり表現をしたりできるよう、「曲の宝さがし」の活動を題材の中に設定した。「曲の宝さがし」とは、学習の流れに沿って聴き方を学ぶ「宝さがし1」、学んだ聴き方を生かして曲を聴く「宝さがし2」、学んだ聴き方を生かして表現の工夫をする「宝さがし3」の三段階で構成した学習活動である。この三段階の学習活動は、「気づき学ぶ」「深める」「生かす」の学習過程と一致するようにした。また、「宝さがし2・3」では、図4に示す学習過程で指導を行った。学習指導要領の中学年で重視されている「旋律の反復や変化」に重点を置いた3年生での「曲の宝さがし」を図5に示す。

ア 宝さがし1

図5の「気づき学ぶ」学習過程では、音楽の聴き方を学ぶ活動を行う。「曲の印象や旋律の変化

を感じ取る」「曲想の変化を感じ取る」能力を、児童が楽しく自然に身に付けることができるよう配慮し、【曲名さがし】【変化さがし】【旋律さがし】の活動を授業開始から10分間を目安に毎時間設定する。表1に具体的な活動内容と支援を示す。

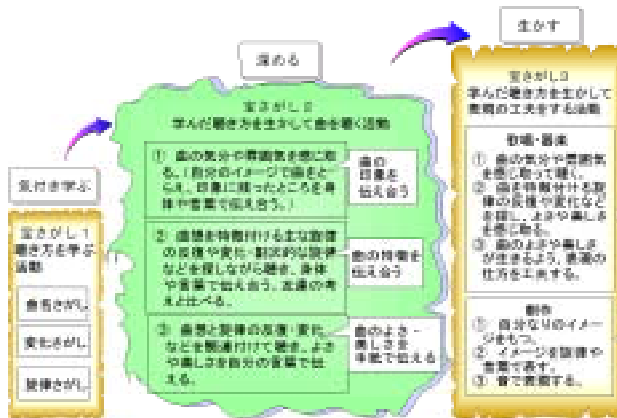


図5 曲の宝さがしの活動 3年生

表1 「宝さがし1」で行う活動内容と支援

活動内容		支援																					
活動名	(活動の目的) 活動の流れ 使用する曲																						
曲名さがし	<p>(曲を聴いて曲のイメージを短い言葉で表し、そう感じた理由を諸要素に着目して言葉で伝えることができるようにする。)</p> <p>感じ取った<音色><強弱><速さ><旋律><リズム>を身体や言葉でどう伝えるか話し合い、ヒントカードを作成する。流れた曲に曲名を付け、ワークシートに記入する。もう一度じっくり聴き、そう感じた理由をヒントカードを基にワークシートに記入する。曲名や曲名を付けた理由を発表し合い、曲を聴きながら答え合わせをする。友達の考えのよさに気づき、認め合う。</p> <p>・「ことわざ」神山純一作曲 『瀑布の轟き』グロフェ作曲 ・『タイプライター』アンダンソン作曲 『静けさ』ロッシェニ作曲 ・『クマパチは飛び、リムスキー・コルサコフ作曲 ・組曲『動物の謝肉祭』より『水族館』『雌鳥と雄鳥』サン・サーンス作曲</p>	<p>『ことわざ』を例にしたワークシート</p> <table border="1"> <tr> <th>曲名(ヒント)</th> <th colspan="3">曲名のヒントになる「たからもの」(音)</th> </tr> <tr> <td>(けしきやようす)</td> <td>(音の高さ)</td> <td>(どんな感じの音?)</td> <td>(せりりつ)</td> </tr> </table> <p>「どんな景色が思い浮かぶかな?」「高い音・低い音、どちらが多く流れているかな?」「やさしい感じ? 悲しい感じ? 激しい? 感じ? 他にも言い方があるかな?」「音楽に合わせて動いてみよう。」「はずむ感じ? 流れる感じ?」</p> <p>第1時 なごぎつね 第3時 な木きん</p> <table border="1"> <tr> <th>どのように変化させたか</th> <th>どのように変化させたか</th> </tr> <tr> <td>1. のリズムで演奏</td> <td>1. 原曲を演奏</td> </tr> <tr> <td>2. 短調で遅く演奏</td> <td>2. 短調で、遅く演奏</td> </tr> <tr> <td>3. 高音で、速く演奏</td> <td>3. 高音で、十六分のリズムで演奏</td> </tr> <tr> <td>4. 低音で、遅く演奏</td> <td>4. 低音で、遅く演奏</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5. のリズムで演奏</td> </tr> </table> <p>「旋律が変化すると、曲の感じはどう変化するかな?」「曲から感じたことを短い言葉で、タイトルに表そう。」</p> <p>『ガボット』曲に合わせて動いて旋律を覚えよう。リズムや音の高さに気を付けて動くといいよ。</p> <p>『メヌエット』初めに流れる旋律に言葉を付けて歌って、旋律を覚えよう。</p> <p>『夏』タイトルをつけて旋律を覚えよう。思い浮かんだ様子をタイトルにするといいよ。</p>		曲名(ヒント)	曲名のヒントになる「たからもの」(音)			(けしきやようす)	(音の高さ)	(どんな感じの音?)	(せりりつ)	どのように変化させたか	どのように変化させたか	1. のリズムで演奏	1. 原曲を演奏	2. 短調で遅く演奏	2. 短調で、遅く演奏	3. 高音で、速く演奏	3. 高音で、十六分のリズムで演奏	4. 低音で、遅く演奏	4. 低音で、遅く演奏		5. のリズムで演奏
曲名(ヒント)	曲名のヒントになる「たからもの」(音)																						
(けしきやようす)	(音の高さ)	(どんな感じの音?)	(せりりつ)																				
どのように変化させたか	どのように変化させたか																						
1. のリズムで演奏	1. 原曲を演奏																						
2. 短調で遅く演奏	2. 短調で、遅く演奏																						
3. 高音で、速く演奏	3. 高音で、十六分のリズムで演奏																						
4. 低音で、遅く演奏	4. 低音で、遅く演奏																						
	5. のリズムで演奏																						
変化さがし	<p>(旋律の変化と曲想との関連に気付くことができるようにする。)</p> <p>基になる旋律を聴く。リズム・調・速さ・音域などが変化した旋律を聴く。流れた旋律にタイトルを付ける。付けたタイトルを発表し合い、友達の考えのよさを認め合う。</p> <p>・「ことわざ」『ゆかいな木きん』</p>																						
旋律さがし	<p>(旋律を覚えるための三種類の方法が理解できるようにする。)</p> <p>三つの旋律を「身体表現」「言葉付け」「タイトル付け」の方法で覚える。流れた旋律をいずれかの方法で表現する。</p> <p>・『ガボット』ゴセック作曲 / 『メヌエット』ベートーベン作曲 ・『四季』より『夏...プレスト部分』ピバルディ作曲 ・『展覧会の絵』より『プロムナード』1・2・4 ムソルグスキー作曲</p>																						

イ 宝さがし2

図5の「深める」学習過程では、児童が学んだ聴き方を生かし、曲想と諸要素を関連付けて鑑賞教材を聴き、よさや美しさを味わう活動を行う。曲の聴き方を深めるために、次の ~ の流れで活動を行う。

曲の雰囲気や印象を感じ取り、身体や言葉で伝え合う。

旋律の反復や変化を中心に、そう感じた理由を考え、言葉で伝え合う。

自分なりの根拠をもって、曲のよさや美しさを手紙に書いて伝える。

ここでは、「宝さがし1」で学んだ聴き方を生かし、感じ取ったことを言葉で伝えることができるよう児童が記入する「宝さがしワークシート」(図6)を活用する。(から までの活動は、

次に示す図6と対応)

指導者は、児童の考えを掲示用「宝さがしワークシート」にまとめていく。

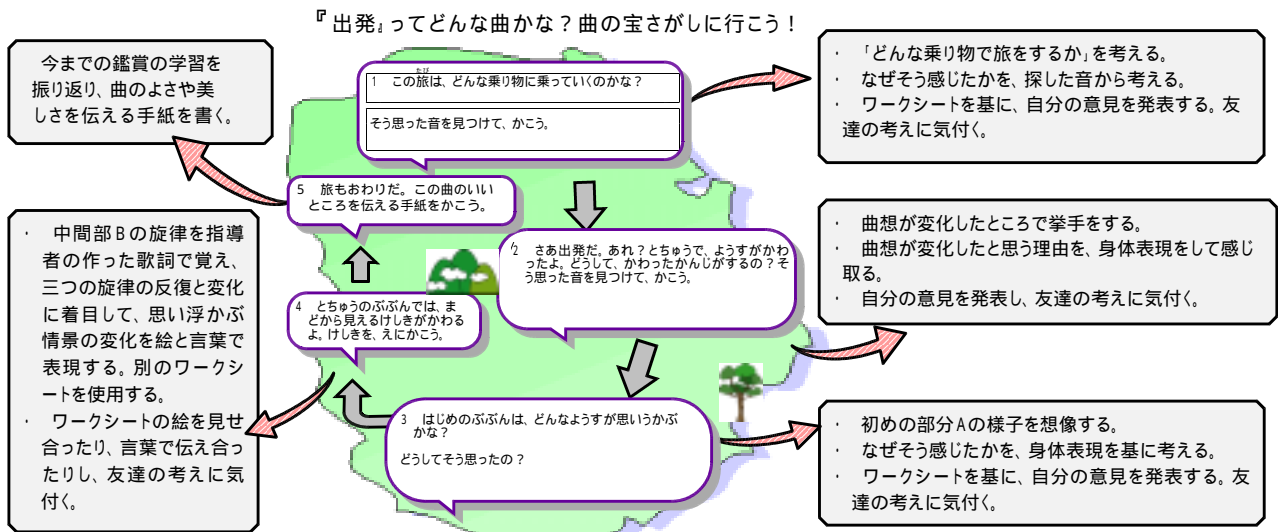


図6 「宝さがしワークシート」と行う活動
注: から は、上記に記した活動と対応

ウ 宝さがし3

図5の「生かす」学習過程では、曲を聴き、よさや美しさ・特徴を感じ取り、それを表現に生かす活動を行う。活動の流れは、次の1～3である。

- 1 範唱や範奏を聴き、曲の印象を感じ取り、身体や言葉で伝え合う。
- 2 歌詞・楽譜から曲の特徴である諸要素を探し、言葉で伝え合う。
- 3 よさ・美しさ・特徴を言葉で伝え合い、そ

れらを生かした表現の工夫を行う。

指導者は、児童の考えを掲示用「宝さがしワークシート」にまとめていく。創作においては、鑑賞で身に付けた力を生かし、動物のイメージを膨らませて、音づくりを行う。各教材の学習活動は、表2に示すとおりである。

以上三つの「宝さがし」の活動を互いに関連させながら題材の中に位置付けて学習を進めていく。

表2 宝さがし3 における学習活動

教材	学 習 活 動 ・ 支 援
<歌唱> ちびっこ カウボーイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴き、曲想が変化したところを探し、手を挙げる。 1 ・ 範唱や楽譜から、曲想がどう変化したかを探し、身体や言葉で伝え合う。 2 ・ 曲想の変化を生かし、強弱・言葉の言い方・発声の仕方など、どう歌いたいかを言葉で伝え合い、歌唱表現する。 3
<歌唱・器楽> ゆかいな木きん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴き、曲の印象や気付いたことを言葉で伝え合う。指導者は、掲示用ワークシートに諸要素ごとにまとめる。 1 ・ 旋律の反復・変化に気付くことができるよう、指導者の提示した楽譜を基に、楽譜に色を塗る。 2 ・ 能力に応じて器楽練習ができるよう、旋律の反復を生かす。 3 ・ 歌詞唱をしながら身体表現をし、どう歌いたいか言葉で伝え合い、歌唱表現する。歌唱表現の工夫を器楽表現にも生かす。 3
<創作> (ゆかいな木きんの創作)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ねずみ・こぐま・うさぎ」から一つ動物を選ぶ。 ・ 3フレーズ目の部分の旋律をつくる。四つの提示された旋律から動物の様子に合うものを選ぶか、提示されたリズムから自分で旋律をつくるかどちらかの方法で創作する。 ・ 選んだ動物と旋律から、動物の様子を表す歌詞をつくる。 ・ つくった曲を歌詞と木琴で演奏する。

2 研究の方法

(1) 実践計画

対 象	小学校 第3学年 16名	期 間	平成19年10月3日～10月30日
題 材 名	「曲の気分をかんじとろう」(教育芸術社「小学生の音楽3」)	授 業 者	長期研修員 富岡 千春
教 材 名	出発(組曲『冬のかがり火』から)(鑑賞)プロコフィエフ作曲 ちびっこカウボーイ(歌唱) 阪田寛夫 作詞/アレキス 作曲/長谷部匠俊 編曲 ゆかいな木きん(歌唱・器楽) 小林純一 作詞/作曲家不明/原由多加 編曲		

(2) 抽出児童

A 男	歌唱や器楽の表現の技能に優れている。授業に集中すること、じっくりと曲を聴くことなどを中心に指導を行い、音楽を聴いて自分の感じたことを伝えたり、友達のことを認めたりして、音楽表現に生かすことができるようにしたい。
B 子	音楽の学習に意欲的に取り組み、感受性が豊かである。諸要素と曲想との関係に気付いて曲を聴いたり、感じ取ったことを表現活動に生かしたりできるようにしたい。

(3) 検証計画

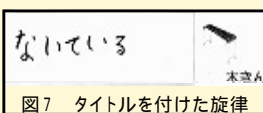



	検証の観点	検証の方法
見 通 し 1	「宝さがし1」で【曲名さがし】【旋律さがし】【変化さがし】の活動が、曲想や音楽の諸要素に気付いて聴くことに有効であったか。	事前・事後のアンケート調査 抽出児の観察 ・ 曲の印象や旋律などの諸要素に注意を向けて聴き、身体や言葉で伝えているか。
見 通 し 2	「宝さがし2」で、<旋律の反復・変化>と<曲想>とを関連付けて聴く【乗り物さがし】【景色や様子の変化さがし】【曲のよさを伝える手紙】の活動が、根拠をもってよさや美しさを伝えることに有効であったか。	事前・事後のアンケート調査 抽出児の観察 ・ 旋律の反復・変化が曲想の変化にかかわっていることに気付いて、聴いているか。 ワークシート ・ 旋律の反復・変化と曲想の関連に気付いて、曲の様子や景色を書いているか。 ・ 曲のよさや美しさを旋律の反復・変化などの諸要素と関連付けて書いているか。
見 通 し 3	「宝さがし3」で、曲を特徴付ける諸要素を探して曲想の変化と関連付けて表現を行うことが、曲のよさや美しさを生かした表現の工夫をすることに、有効であったか。	事前・事後のアンケート調査 抽出児の観察 ・ 曲想の変化に合った歌声や歌い方の工夫をして歌っているか。 ・ 旋律の反復・変化を生かした楽器の練習や強弱の工夫をしているか。 ・ 言葉や様子のイメージを膨らませて、歌詞づくりや音づくりをしているか。

研究の展開

1 題材の目標及び評価規準

目標	旋律の反復・変化に気付いて曲想の変化を感じ取り、主体的に曲を聴いたり表現を工夫したりできる。			
	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規準	曲想やその変化に関心を持ち、進んで表現や鑑賞しようとしている。	旋律の反復・変化を感じ取って聴き、表現の工夫に生かしている。	曲想と旋律の関連を感じ取って、演奏することができる。	情景を想像しながら、曲想の変化を感じ取って聴くことができる。
歌唱				
器楽				
創作				
鑑賞				
具体の 評価規準	歌詞に合うよう楽器やリズムを選んで音づくりをし、つくった音を進んで発表しようとしている。 友達の考えとの類似点や相違点を見付けながら、曲を聴こうとしている。	旋律の反復・変化から、曲想の変化を感じ取っている。	曲想の変化が生かせるよう、声の出し方を工夫して歌うことができる。 旋律の反復・変化に気付いて、拍の流れののって演奏することができる。	情景と曲想・諸要素を関連付けて聴き、言葉や身体などで伝えることができる。

2 指導計画（全6時間） 原則として1時間の流れの中に三つの宝さがしの活動を位置付けた。

		学 習 の 流 れ		『使用する曲』
時	気付き学ぶ	「宝さがし1」	深める 「宝さがし2」	生かす 「宝さがし3」
1	【曲名さがし】の活動をする。『ことさ』『瀑布の轟き』『雌鳥と雄鳥』 【変化さがし】の活動をする。『こぎつね』			『ちびっこカウボーイ』の曲想の変化を探す。
2	【旋律さがし】の活動をする。『ガボット』『メヌエット』『夏』		『出発』の情景を想像したり、曲想の変化に気付いたりしながら聴き、出てくる乗り物や根拠となる音を探す。	『ちびっこカウボーイ』を特徴付ける諸要素を探し、曲の特徴を生かした歌唱表現の工夫をする。
3	【変化さがし】の活動をする。『ゆかいな木きん』  図7 タイトルを付けた旋律		『出発』の初めの部分Aを聴き、情景を想像したり、根拠となる音を探したりする。	『ゆかいな木きん』の範唱を聴き、曲の印象や気付いたことを探して伝え合い、歌詞唱をする。 『ゆかいな木きん』の旋律の反復・変化を探して、器楽練習に生かす。  図8 反復・変化さがし
4	即興的に旋律をつくる活動をする。		『出発』の中間部分Bの旋律の反復・変化を探して聴き、情景の変化を想像して絵と言葉でワークシートに記入する。  図9 工夫を共有	『ゆかいな木きん』の身体表現から曲の気分を感じ取り、旋律の特徴も生かしながら、歌唱表現を工夫する。
5	【旋律さがし】の活動をする。 『プロムナード1・2・4』  図10 感じたことを伝える		『出発』の中間部Bを聴き、イメージした情景や探した音を、絵や言葉で伝え合う。	探した旋律の反復・変化を生かして、『ゆかいな木きん』の器楽練習をする。
6	『出発』の全体を味わって聴き、曲のよさや美しさ伝える手紙を書く。		『ゆかいな木きん』の演奏を楽しむ。 『な木きん』に合う旋律や言葉を探し、創作表現をする。	

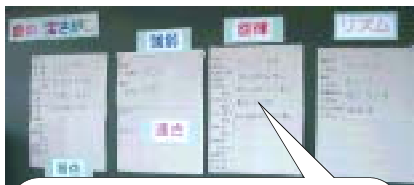
研究の結果と考察

1 「宝さがし1」の活動が、曲想や諸要素に気付いて聴くことに有効であったか

(1) 【曲名さがし】の活動

第1時の初めに、図11のようなヒントカードを

【曲名さがし】の活動をしながら作成し、これを参考に身体表現をしたり、ワークシートに曲名と、その曲名を付けた理由を記入したり



作成した“旋律”のヒントカード

言葉で表す	からだ で 表す
はねてる感じ	ジャンプする
なめらかな感じ	手をなめらかに動かす
元気な感じ	手をいっぱいふって
悲しい感じ	首を下げて歩く
流れる感じ	手を斜めに下げて横に歩く
不思議な感じ	首をかしげながら歩く

図11 諸要素に着目して感じたことを言葉や身体で表すためのヒントカード

した。『ことざ』は、やわらかい音でなめらかに演奏される旋律と、高い音から順次下降する旋律が、交互に表れる星座の様子を表した曲である。児童は、手を挙げて左右にゆっくりと振ったり、細かく振ったりしながら歩き、なめらかな感じや細かく下降する感じの曲想をとらえていた。その後、曲名や曲名を付けた理由など、気付いたことをワークシートに記入し、発表し合った。「流れる感じの旋律で、キラキラした高い音だったから、『海の中』という曲名を付けた。」「不思議な感じの旋律で、高いやさしい音だったから『かなしい村』という曲名を付けた。」など、曲想と諸要素を関連付けた発言をする姿が見られた。『瀑布の轟き』は、ナイアガラの滝の様子を表した曲である。児童は金管楽器で演奏される荘厳な旋律に合わせてゆっくり歩いたり、時折入る木管楽器の下降進行の旋律に合わせて手を斜めに下ろす動作をしたり、爆発的なシンバルの音に合わせてジャンプしたりしていた。「低い音・長いリズムの旋律だから『雷』」「低くて大きな音だったから『地震』」その他には『嵐』『ドラゴンが現れた』など、曲想をとらえた曲名を付けることができた。『雌鳥と雄鳥』は、「コッコッ」と「コケッコー」の鳴き声を表す旋律が、弦楽器・ピアノ・クラリネットと楽器を変えて反復される。児童は、弦楽器の細かい旋律に合わせて走ったり、ピアノ・クラリネットの部分では立ち止まったりしながら、旋律の違いを感じることができた。「速い感じだから『チーター』」「不思議な旋律だから『暗い森』」などの発言が出された。事前に行った実

態調査の「曲名付け・理由付け」では、全く記述できなかった児童も、「高いやさしい感じの音で、不思議な旋律だから『流れる音』」「低く長いリズムで大きい音だから『雷』」「細かいリズムだから『森の動物』」と3曲とも根拠を明らかにして記述することができた。感じ取ったことを自分では言語で表現することは困難であるが、ヒントカードを見て自分の考えに一番近いものを選択することは可能であったためと考える。

【曲名さがし】は、実践後の調査の中でも行った。1回目の活動でA男は、3曲中1曲に理由を付けて記述でき、2曲は曲名だけの記述であった。B子は、3曲中2曲記述できた。2回目の活動では、A男・B子とも、4曲中4曲記述することができた。図12に示す通り、A男は、『瀑布の轟き』を何となく「地震を表した曲」ととらえていたが、実践後に聴いた『水族館』は、「弱く不思議な音で、やわらかい旋律だったから『夜の学校』」と諸要素と関連付けて根拠をもって曲想をとらえることができた。これは、

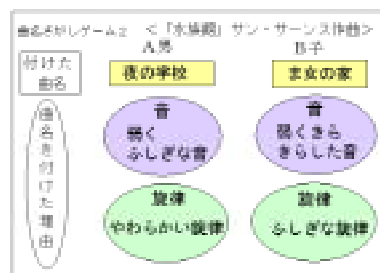
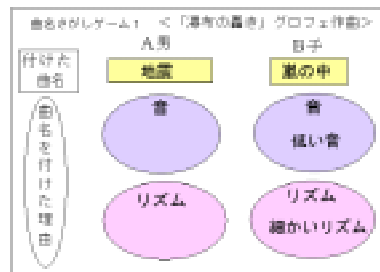


図12 抽出児「曲名さがしゲーム」の解答

「宝さがし」の活動を積み重ねたことで、曲の特徴を構成する諸要素に気付いて主体的に音楽を聴くことができるようになったためと考える。

(2) 実践後アンケートから

「宝さがし1」の活動について授業後にアンケート調査を行ったところ、図13のような結果となった。効果的だったのは、<曲想の変化に気を付けて聴く><旋律と曲想の変化を関連付けて聴く>である。特に、2回目の【変化さがし】(グラフに

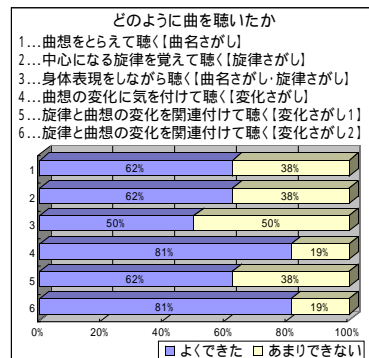


図13 授業後のアンケート調査結果

示す<5>と<6>の比較)では、「よくできた」児童が19ポイント増加している。【変化さがし】の活動を積み重ねたことから、児童の中に<旋律の変化に気を付けて聴く>という意識が高まり、主体的に音楽を聴くことができたと思われる。ところが<身体表現をしながら聴く>は、「よくできた」と答えた児童が半数であった。これは、【曲名さがし】や【旋律さがし】で「感じ取ったことをどう身体表現するか」を考えたり、友達の動きを参考にしたりする活動が少なかったためであると思われる。今後も学習の継続が必要であると考え。

以上のことから、「宝さがし1」で行った【曲名さがし】【変化さがし】【旋律さがし】の活動は、曲想や音楽の諸要素に気付いて聴くことに有効であったと言える。

2 「宝さがし2」の活動が、根拠をもってよさや美しさを伝えることに有効であったか

(1) 全体の曲想をとらえる

第2時では、『出発』の全体の曲想をとらえるために、「目を閉じ、何に乗って旅に出かけたか、想像しよう。」と投げ掛けた。聴くポイントが示されたためか、じっくりと音楽に耳を傾ける姿が見られた。「シューッとした音がしたから、飛行機だと思う。」「ポーツという音がしたから、船だと思う。」「シンバルの音が煙の出る音に似ていたから、SL。」「楽しそうな曲だったから、馬車。」など、全児童が自分なりの根拠をもって、乗り物を想像することができた。A男は、友達に促されて拳手をし、「汽笛みたいな音が鳴ったから、電車か汽車。」と答えた。「どんな音だった？」の問いには、「シュッシュュツという音。」と答えた。B子は、「汽笛の鳴る音やシュッシュュツという音がしたから、汽車だと思う。」と進んで思いを伝えることができた。「曲の宝さがし」の活動では、友達の意見に賛同する場合は「パー」、自分の考えと違う場合は「グー」のハンドサインをするという約束をしてスタートした。「電車や汽車」と答えた児童に、賛同の「パー」の拳手が多かったが、作曲者の思いを感じ取ることができたことを認めると同時に、作曲者のイメージと違っていても曲をよく聴いて自分なりの考えをもてたことに対しても賞賛をした。

第2時・第3時には、曲全体の曲想の変化を感じ取る活動を行った。『出発』は初めの部分A(以後Aの部分)、中間部B(以後Bの部分)、終わ

りの部分A'で構成されている。初めに、汽車の走る様子を身体表現で表す活動を行った。Aの部分では<汽笛の音>に合わせて片手を挙げながら、勢いよく走り出していた児童が、Bの部分では図14のように、蛇行しながら歩いたり、低い姿勢から高い姿勢になって歩いたりするなど、身体表現に変化が見られた。次



図14 Bの部分の身体表現をする児童

に、目を閉じて曲を聴き、A・Bの部分の曲想の変化を「宝さがしワークシート」に記入し、感じ取ったことを言葉で伝え合う活動を行った。Aの部分の情景をトランペットやスネアドラムの音、弦楽器で表される規則的な伴奏に気付いて、「人が汽車を探している。」「汽車が動き出すところ。」中には、「音が高くなっていくから山を登っている。」などと発表する児童もあり、92%の児童が情景を想像することができた。また、Bの部分で<静かな感じ><やさしい感じ><窓から「りす」や「うさぎ」を見ている感じ>に変化したなどと、71%の児童が曲想の変化をとらえることができた。A男は、図15のように<音の大きさや音色>から、曲想の変化をとらえていた。B子は、「初めの部分は、ガタガタゆれながら走っている。ドンドンって音がしたから。」「中間は花畑の中を走っている。」と記述した。指導者の「どうしてそう思うのかなあ。」の書き込みに対して、「なめらかな旋律だったから。」と、記述でき、両児童とも曲想と要素を関連付けて聴くことができた



図15 A男の「宝さがしワークシート」

と考える。

(2) 旋律の反復・変化と曲想を関連付けて聴く

Bの部分は同じ旋律が、楽器を替えて三回繰り返される。第4時・第5時では、旋律の変化によって、窓から見える情景がどう変化するかを想像する活動を行った。初めに、指導者が提示した歌

詞を旋律にのせて歌ってその旋律を覚え、反復される回数を数えたところ、全員から三回という正答を得た。次に、窓から見える景色がどう変化するかを、ワークシートを用いて絵と言葉で伝える活動を行った。図16のグラフ結果からは、感じ取ったことを

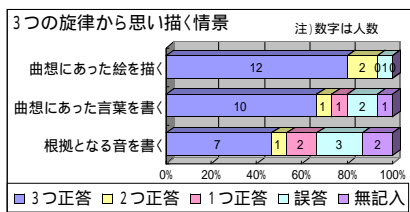


図16 3つの旋律の変化をどう聴き取っているか

言葉では伝えることができない児童も、絵では表現することができたことが分かる。ワークシートを基に、想像した情景やそう感じた理由を発表する活動では、「パー」「ゲー」のハンドサインで意思表示をしながら、友達の発表を聞くよう促した。二回目に繰り返される旋律について、「トライアングルの音がしたから、川だと思った。」という児童の意見には、トライアングルの音と川のきらめくイメージを共有でき、全員が賛同の「パー」のサインを出した。

A男は、図17のように、三つ目の窓から見える

情景を「夜に帰ってくるとき」その理由として「音が大きいから」と記している。＜夜＞のイメージとして、＜音が大きい＞は、言葉では矛盾しているように感じるが、絵からは華やかなイルミネーションに飾られた＜夜＞ということが分かる。このように、言葉だけでは伝わらない旋律のイメージも絵を併用することで、より正確に伝えられるようになったと考える。

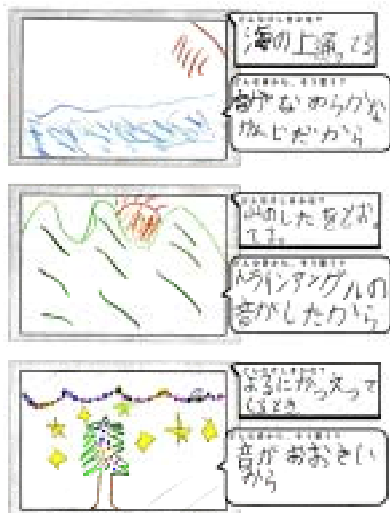


図17 A男の「窓から見える景色の変化」

(3) 感じ取った曲のよさ・美しさを伝える

第6時では、これまでの鑑賞の学習を基に、感じ取ったよさや美しさを家の人に手紙で伝える活動を行った。「汽車らしい音がする曲だよ。」「景色1と2は、雪が降っている感じだよ。」「最後は行きたいところへ着いた感じだよ。」など、16名全員が、思い浮かべた情景と旋律や音色・強弱

と関連付けて、曲のよさ・美しさについて自分なりの言葉で記述することができた。「窓から見える景色の変化」のワークシートでは、二つ目の窓から見える景色を「山と太陽」、理由は未記入であった児童も、「きれいなところは、トライアングルを使ったところで、景色2のところだよ。」と手紙の中で美しさとその理由を記述できた。前時に聞いた友達の発表によって、「太陽」と感じた理由が、「トライアングルの音がしたため」とであると気付くことができたと思う。

図18・19に示すとおり、文章には課題があるが、A男、B子両児童とも、情景と諸要素とを関連付けてよさや美しさを伝えることができた。

弟へ

さいしょは、出発するところです。つぎは、まどからけしきが見えます。さいごは、汽車が止まります。なめらかな感じのところは、海が見えました。トライアングルのところは、山の下を通って、音が大きくなって夜にかえてくるようすです。さいごに音が大きくなって、楽しいから、きいてね。

図18 A男の手紙

おかあさんへ

汽車で色々なところを旅していく、ものがたりみたいな曲です。とちゅうでせんりつが変わって、そこを歌っておぼえました。せんりつが変わるとき、まどから見えるけしきが三つあります。一つ目は花畑で理由は、なめらかな感じだったからです。二つ目は山の中で、理由はやさしい感じだからです。三つ目は星空で、理由は大きい音だから、高いところだと思いました。この曲は、旅をしたくなるような曲だからぜひきいてください。

図19 B子の手紙

以上のことから、＜旋律の反復や変化＞と＜曲想＞とを関連付けて聴く活動が、根拠をもってよさや美しさを伝えることに有効であったと言える。

3 「宝さがし3」の活動が、曲のよさや美しさを生かした表現の工夫を行うことに、有効であったか

(1) 児童全員の様子

『ゆかいな木きん』では、範唱を聴いた際、「楽しそうな曲。」「踊っているみたい。」「太鼓の音がしたから、楽しそう。」など、曲の印象をすぐに言葉に表すことができた。「宝さがし1・2」の活動によって、音楽を聴いて伝える力が育ってきたことがうかがえる。次に、「こざる」や「こぶた」の様子を身体表現した後、どのように歌いたいかを発表し合った(図20)。「さるは、得意そうにはねて渡っているから、はずむ感じで歌う。」「さるは、楽しそうに歌う。」



図20 工夫を発表する児童

「ぶたは、ギクシャクした感じで。」「ぶたは、弱く歌う。」「さるやぶたの動きをしながら歌うと楽しい。」『びくびく』は、弱く歌う。『あっち』は遠くだから弱く、『こっち』は近くだから強く。」などの意見が出された。身体表現をしたり友達の様子を見たりしたことで、歌唱表現をどう工夫すればよいか考えることができたと思われる。授業後に行ったアンケート調査でも、図21のように、学習が進むにつれて表現の仕方を考えたり、実際に工夫して表現したりできる児童が増加していることが明らかになった。

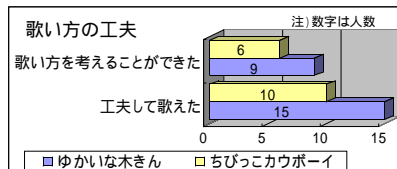


図21 歌い方の工夫ができたか

『ゆかいな木きん』で行った旋律ごとに色付けをする活動では、児童からは、「1小節目と2小節目は同じだ。」「1段目と2段目の1小節目と3小節目は同じだ。」などの旋律の反復・変化に関する発言が出された。このことにより、自分の能力に合わせて同じ旋律だけを鍵盤ハーモニカや木琴で演奏に加わることができた。リコーダーの器楽練習では、「2段目と4段目は同じだから、ここが吹けるようになれば、たくさんできるようになる。」といったつぶやきも聞かれた。合奏の際に「演奏の仕方でも工夫してみよう。」と投げ掛けたところ、「歌と同じように、1番は元気に2番は弱く吹くといいね。」「3段目は、歌詞と同じように前半は弱く、後半は強く吹くといいよ。」などの工夫が出された。

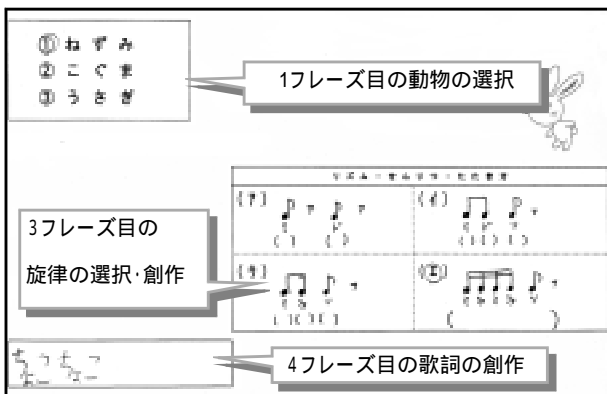


図22 A子のワークシートから抜粋

第6時では、図22に示すワークシートを使用して、『な木きん』の創作活動を行った。活動の初めに、選択する旋律のイメージがもてるよう、指導者が(A)~(I)を木琴で範奏した。その際、音の指定があるが、音や音域の変更があってもいい

ことを伝えた。動物と旋律の選択の状況は、図23のグラフに示すとおり、<はずむ感じの旋律(ウ) うさぎ>を選択した児童が最も多く、次

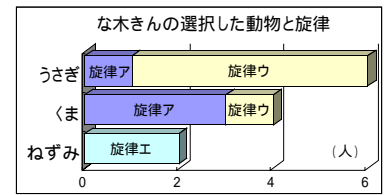


図23 選択した動物と旋律の関係

いで、<動きの少ない旋律(A) くま><細かい旋律(I) ねずみ>の順であり、(I)の旋律を選択した児童はいなかった。また、橋わたりの様子を表す歌詞の記入では、「うさぎ」は「ぴよんぴよん」、「くま」は「どしどし」、「どすどす」、「ねずみ」は「チョコチョコ」で表す児童が多かった。<はずむ感じの旋律(ウ) くま>を選択した児童も、「スキップ橋わたり」と歌詞を記入しており、イメージした様子と旋律とを関連付けて考えることができたと思われる。図24は創作した曲の発表の様子である。どの児童もできた曲を誇らしそうに進んで発表することができた。実践後のアンケートでも「曲の宝さがし」の活動を通して



図24 創作した曲をみんなで演奏

「様子に合った音楽をつくること」において、82%の児童が「できるようになった」「だいたいできるようになった」と答えている。このように、言葉や様子のイメージから旋律を探して音楽をつくるのが、創作表現においても有効であったと言える。

(2) 抽出児の活動から

B子は、曲想の変化に敏感に気付いて挙手をしたり、『ちびっこカウボーイ』の歌唱で、前半のはずむ感じ・中間部の堂々とした感じを生かして表現したりする姿が見られた。『ゆかいな木きん』でA男は、「うれしそうな感じの曲。」B子は、「木琴の音がして、楽しそうな曲。」と感じたことを発表した。B子は、はずんだ感じで橋を渡る「さる」を身体表現し、歌詞唱の工夫に役立てることができた。器楽では、A男・B子とも、旋律の反復・変化に気付いて楽譜に色めりを行っていた。特にA男は、鍵盤ハーモニカの個人練習の際、旋律が反復されている部分を集中して練習し、曲全部を演奏することができるようになった。『な木きん』の創作でB子は、「ねずみ」を選択し、木琴の一番高音である「ミファソ」を用いて、進

んで表現をすることができた。「チョコチョコしたねずみの様子は、高い音が合っている」とイメージと要素を関連付けて音楽をつくることができたためと思われる。

表3 抽出児のアンケート結果

質問項目	A男	B子
「ちびっこカウボーイ」の歌い方を工夫することができた		
「さる」「ぶた」の様子を思い浮かべることができた		
「さる」「ぶた」の様子に合った歌い方ができた	x	
「あっち」「こっち」の強弱を工夫することができた		
旋律の反復・変化に気付いて演奏することができた		
曲づくりをして、リズムや音を変えると、いろいろな曲ができることが分かった		

表3に示す通り、授業後のアンケートでも、曲想の変化や曲の特徴に合わせて表現を工夫している様子が明らかになった。

以上のことから「宝さがし3」の活動が、曲のよさ・美しさを生かした音楽表現の工夫を行う上で、有効であったと言える。

4 「曲の宝さがし」の活動の相互の関連

本研究では、三つの「曲の宝さがし」の活動を1時間の授業の流れの中に段階的に取り入れ、活動が進むにつれて聴く力や表現する力が高められるように題材を構成した。第2時では、「宝さがし2」鑑賞曲『出発』の鑑賞で、全児童が自分なりの根拠をもって乗り物を想像することができた。これは、授業の導入で行った「宝さがし1」【旋律さがし】や前時に行った【曲名さがし】の活動から曲想をとらえて聴くことに気付き、主体的に聴くことができたためと考える。同様に「宝さがし3」『ちびっこカウボーイ』の歌唱表現の工夫では、じっくりと範唱に耳を傾ける児童の姿が見られ、「前半と終わりの部分は細かいリズムだから、はずむように歌う。」「中間部は長いリズム・前半より高い音・ラという言葉が続いているから、なめらかにきれいな声で歌う。」といった発言が見られた。授業の初めに行った「宝さがし1・2」の活動が歌唱表現の工夫に効果的に働いたと考える。『な木きん』の創作表現では、イメージに合った動物と旋律の選択をスムーズに行うことができた。これは、「宝さがし1」で行った【変化さがし】によって、旋律の特徴と様子を表す言葉を関連付けて考えることができるようになったためと考える。このように、三つの「曲の宝さがし」の活動が相互に関連し合い、児童の聴き方が深まり、表現することができるようになったと考える。

研究の成果と課題

1 成果

本研究は鑑賞指導の充実を基盤とし、「曲の宝さがし」の活動により培った聴く力を、表現の工夫に生かすことができる児童の育成をねらいとして進めてきた。「曲の宝さがし」を段階的に取り入れたことにより、児童は曲の中にある様々な要素が曲想を特徴付けていることに気付くことができた。さらに、このことにより、何気なく曲を聴いていた児童が、主体的に曲を聴くことができるようになってきた。また、とらえた曲想や諸要素を基に曲のよさや美しさを伝えることができるよう変容したことは、曲の聴き方が深まったためと言える。そして、曲の聴き方が深まったことが、曲を特徴付けている諸要素や曲想の変化・曲のよさや美しさを生かした表現の工夫をすることに結び付いていったと考える。

2 課題

実践を進める中で、「もっと多くの音楽に触れてほしい。」と感じた。そのためには、曲の中にある様々な<要素>や<よさや美しさ>の何を感じ取らせたいのか、そこで培った鑑賞の能力がどう音楽表現に生かしたいのかということについて、指導者がはっきりとした意図をもって選曲や学習計画の作成を行っていくことにより、多くの音楽に触れるきっかけ作りをすることが重要であると考えた。

本研究では、感じたことをどう伝えていくかという具体的な伝達方法に課題が残ったが、今後は感じ取ったことを言葉・身体・絵など様々な手段で伝え共有する場を充実させ、多様な感じ方に触れる機会を意図的に設定していきたい。また、鑑賞で培った力を表現に生かすために、題材計画の中で表現領域を焦点化するとともに、他学年においても本研究を広げていきたい。

<主な参考文献>

- ・渡邊 學而 著 『音楽鑑賞の指導法』音楽之友社 出版(1987)
- ・教芸音楽研究グループ 著 『小学校鑑賞ガイドブック』教育芸術社
- ・財団法人音楽鑑賞教育振興会 研究開発部会編 『音楽科では何を指導しているのか』(2006)
『音楽科の「学び」を浮き彫りにした指導と評価の計画とは』(2007)